

週報

令和 4 年 12 月 16 日

2022~2023年度 No.19

2022-23年度 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジェニファー E. ジョーンズ

プログラム

S A A 有川 真史君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆ビジター紹介

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

山下 克己君

☆点 鐘

現在会員					30名		前々回の欠席者(12/2)						2名	
本 日	出席	15名	欠席	8名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	4名	出席率				65.22%	
	出席	18名	MU	4名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	3名	修正出席率		91.67%			
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
	本年度	75.55	81.16	83.53	77.58	89.84								
	前年度	74.94	休会	休会	81.53	77.59	73.49	85.71	休会	70.49	69.74	70.51	77.60	

例会場 カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
例 会 金曜日(12時30分~13時30分)
事 務 所 長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 才 津 喜 彦
副 会 長 中 村 吉 廣
幹 事 西 上 裕 一 郎
雑 誌 会 報 委 員 長 寺 澤 信 義

ビジター

東京愛宕ロータリークラブ 西原美夏子君
(ミカコ建設工業株式会社代表取締役)

ビジター挨拶

東京愛宕ロータリークラブ 西原美夏子君



会長の時間

直前会長 山下 克己君

皆様、こんにちは。

本日は、会長、副会長のお二人が、共に所要のため欠席されるとのことで、会長代理を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いたします。

急な大寒波の襲来で寒くなりました。それにしても、明日、明後日と、さらに寒波が厳しくなり、五島地方でも雪が降るような予報が出ています。いずれにしても、寒いのは苦手です。

後になりましたが、先週の忘年会、皆様たいへんお疲れ様でした。お陰様で私も少々飲みすぎたりして、久方ぶりに楽しい時間を過ごさせていただきました。誠にありがとうございました。

さて、会長の時間ですが、全く予期しないことでありましたので、何の準備もできておりません。ただ思いつくままにということで、務めさせていただきます。

先週12月7日、福江商工会議所の視察研修ということで、平戸市まで行ってまいりました。実は、2年程前に平戸商工会議所の皆様が、ここ福江まで視察研修においでになりました。その折、今後、平戸と福江の両商工会議所の交流事業として取り組んでいこう、という約束をしておりました。コロナウイルスのため、平戸訪問が実現できないままで2年が経過してしまいました。都合3回の訪

問計画も、1回目、2回目と、途中断念ということになり、ようやく3回目にして実現したという次第です。

先方、平戸商工会議所の皆様にたいへんな歓迎を受け、当方一行11名は大いに楽しみ、また勉強もさせていただきました。現地の観光施設である平戸城や歴史資料館の訪問、商店街の散策などを致しました。また、お寺と教会が並んで建っているところなども見学した次第です。その後、意見交換会など、2時間以上もかけて行いましたが、実に、実のある意見交換会だったと思います。全く同じではありませんが、要は同じ悩みを抱えているもの同士の話し合いで、以後もこの交流会を継続していくことで、答えを出したり、少しでも答えに近づいていこうということで、再度合意し、交流会を継続していくことになりました。詳しくは、会議所の方から紹介することもあろうかと思っておりますので、省略します。

実際は何も難しいことはなく、与えられた課題があまりに大きすぎるだけのことだと思います。というのは、人口減少とそれに起因するすべての問題に対してどのように対処すべきか、ということの話し合いだと思います。私たちの福江、五島市も全く同じ課題を抱えており、話が合うのは、当然と言えば当然ことです。ただ、先方の取り組む姿勢に私たちは負けているのでは、と少々不安になりました。

多分、日本全国に、同じような悩みを抱えているところは数多くあると思います。これといった決め手に欠けるのが実情だと思います。後は姿勢の問題で、無駄とも思えるようなことにも取り組んでいくべきであり、やっているうちに活路がみえてくるかもしれない。そんなことを考えさせられる視察研修でした。

少々場違いな話となりましたが、私も出来るところから、出来ることをする。ということで、ご理解をお願いします。

最後に、私には競馬の予想は無理でございますので、これで代理の会長の時間を終わります。

ご清聴、誠にありがとうございました。

幹事報告

幹事 西上裕一郎君

【当クラブ関係】

- 第6回定例理事会議事録
- 年次総会について
 - ・次週12月23日（金）の例会終了後、年次総会を開催

【地区関係】

- 第9・10グループ会員名簿をメールボックスにお配りしております
- ガバナーエレクト事務所より
 - ・年末年始休業のお知らせ

【地区以外ロータリークラブ関係】

- 長崎中央RCより
 - ・例会変更のお知らせ
- 長崎みなとRCより
 - ・例会休会・変更のお知らせ
- 福江中央RCより
 - ・週報第13と14号
- 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より
 - ・ハイライトよねやま273号
- 国際ロータリーより
 - ・メルボルン国際大会・日本人親睦朝食会に関するお願い

親睦委員会

スマイル報告

- ◇東京愛宕RC
西原美夏子君 本日はよろしくお願ひします。
- ◇張本 民雄君 在籍20周年の記念品をありがとうございました。
- ◇山下 克己君 本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願ひします。
- ◇神之浦文彦君 数年ぶりにスマイル会で優勝しました。
- ◇西上裕一郎君 東京愛宕RC西原美夏子様、ご訪問ありがとうございます。
- ◇戸田 博之君 //
- ◇平村 和弘君 //
- ◇松岡 孝博君 //
- ◇宮本 光藏君 //
- ◇有川 真史君 //
- ◇中村 栄治君 山下克己さん、卓話よろしくお願ひします。
- ◇山里 一郎君 //
- ◇片山 雅文君 //
- ◇橋本 武敏君 //
- ◇三村 剛孝君 //
- ◇藤川 博士君 //

合計 19,000円

通算合計 399,000円

委員会報告

出席報告

- ◆12月16日（免除(a)欠席者）
中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君
- ◆12月16日（免除(b)欠席者）
谷川 和啓君 佐々野邦久君 清瀧 誠司君
吉田 泰之君
- ◆12月16日欠席者
柳田 靖夫君 小畑 和男君 坂井 成光君
才津 喜彦君 山下 実君 森田 大輔君
中村 吉廣君 寺澤 信義君

部内卓話

山下 克己君



皆様、こんにちは。
先日、卓話のご指示をいただきました。まことにありがたいことです。ずいぶんと早くからご指示を頂きましたのに、なかなか原稿の方が出来なくて困ってしまいました。昨日まで、いろいろと思い悩んでいましたが、腹をくくって、思いつく

ままにまとめてみました。

もう、ずいぶんと前のことですが、明智光秀の本を読みました。内容も、作者名も、忘れてしまいましたが、「時は今、雨がしたしる、五月かな」という一節だけを覚えています。これは、当時流行であった連歌の会での上の句で、光秀の発句といわれています。そのあとを、他の誰かが下の句で受けるというのが連歌だと聞いています。これは本能寺の変の数日前のことで、この句によって光秀が信長討伐の決意を固めたという作者の物語構成になっていました。下の句は、そのことに気付いた人が、その意を察して、それを押しとどめるような内容になっていましたが、詳しくは記憶にないことです。皆さんお分かりとは思いますが、話のついでに少々説明します。「時は今」という言葉と、当時の美濃、今の岐阜県ですが、そこで足利時代の末期まで守護職を務め、斎藤道三に滅ぼされるまで戦国大名として支配を続けてきたのは土岐一族です。土岐源氏として、源氏の流れをくむ一族のことです。光秀も、土岐源氏の傍系にあたります。時は今と土岐氏を重ねた上で、「雨がしたしる」の雨がしたで区切ると、文字通り「天下」のことですから、「天下を知る」と言うことになります。さつきは五月です。当時、まだ若かった私には、作者の脚色にずいぶんと感心した記憶が残っています。数年前、NHKの大河ドラマで取り上げられましたが、見逃したのか、もともと組まれていなかったのか。気づきませんでした。

この大河ドラマは、毎年主役を変えて現在まで続いているシリーズで、私の記憶では、私がまだ中学生の頃に始まったのでは、と思っています。当時、まだ意味をよく理解できない年齢ではありましたが、どこかでこの大河ドラマは処世術のドラマだと聞いたのを覚えています。現在、鎌倉時代の北条義時を主人公にしたドラマが放送されているようです。

一説では、外国、主にヨーロッパですが、日本を研究する人たちの評価として、歴史上も含めて源頼朝と織田信長の二人が、時代とそのしぐみを大きく変えたという意味で、日本の大人物・大偉人として評価されていると聞いています。

時代の節目というのは、常に存在しているようですが、時を得て、そして、良き人を得て、初めて時代というのは変わってきたように感じています。

私のような凡人には理解できないことの方が多いのですが、歴史を知るということは、処世術を

学ぶということにもなりそうです。

話は変わりますが、まだまだ「時は今」の話です。それも、私の身の回りの小さな些細なことです。私の家庭菜園ことです。

知り合いに頼まれてというのが始まりですが、現在所有する畑が一町歩ほどになりました。全部をととても面倒見切れないので、そのうちの二反部ほどで野菜を作っています。当然食べきれないので、できるだけ長い期間で食べられるように考えて、種蒔きや植付をずらしたりします。しかし、ずらしすぎても、芽が出なかったり、うまく成長させることできななかったりします。しかも、少々ずらしたりしても、ほとんど同じ時期に花が咲きます。ですから、長く食べたいと思っても、後にずらすのは無理のようです。あとは、早めに食べることです。野菜の定番と言えば、白菜、キャベツですが、これは巻き野菜なので、早めに食べるというのにも、巻かないと食べられないので限界があります。種蒔きの蒔きの字は、時という字の上に草冠を載せます。昔の人は、種を蒔くにも時があるということで、この字を考えたのだろうかと思ったりしています。

話は少し変わりますが、漁業の話をしします。漁業も、また農業と同じように「時」の勝負です。一晩中魚が釣れるというのは、ある特定の魚種とかに限られるものです。ほとんどの場合、潮替わしとか、夜明け前の数時間にかけているというのが実態です。それも大量にとれる魚は、全部と言ってもよいと思いますが、回遊魚です。その回遊の時期をうまく見定める必要があります。ほかの産業もすべてと思いますが、「時」に左右されることには相当のものがあるのではと思います。「時」を見る目を持つこと、そして「時」を予測することが必要です。

「運」の問題だという人もいます。確かに、そうであろうとは思いますが。ただ、ある書物からですが、どなたにも大なり、小なりに「運」はめぐってくるものとあります。人間、一生のうちには早いか、遅いかの時期は別として、そうであろうと思います。

問題は、その時が来ても準備ができている人は、うまくその「運」に乗ることができる。もしそうでなければ、それはかなり難しいものになる。そのようなことを、若いときに教えてもらった記憶があります。

話が少々反れたようなので、元に戻します。また、農業の話です。畑を買い増しするので、1町歩を超えてしまいました。ほかの農家に迷惑をか

けるわけにはいきません。年に5～6回以上は、トラクターで耕うんします。雑草を生やさないためです。それで、わりと面積が必要な樹園地にしようと計画しています。4年ほど前から少しずつ取り組んでいますが、時間が足りないこともあってほとんど前に進みません。何よりも、苗を根付かせることが困難です。私が住んでいる岐宿、特に水之浦というところは、場所的には内湾になっているものの海が近く、強風の時には塩害が出ます。また、冬の季節風である北西の風が激しく吹き付けるところで、昔から果物の木は育たないと言われてきたところです。2年前の卓話でも話した通りです。

ただ、あれから2年過ぎました。2年もかけて、やっとヒントらしきものが出てきました。どうやら、木が大きくなれば強くなってくるので、ある程度耐えられるようです。問題は、やはり苗木から3～4年のようです。いろいろ試してみました。

結論から言いますと、問題は地上部ではなく地下にあるようです。昔の人の言葉に、「根さえ張れば、枝葉は自然と茂る」というのがあります。「人間だって、そうなのだ。」と言われたことを思い出しています。

問題が解決したわけではありませんが、方法が見つかったということです。問題は、根にあるということに思いました。植えるだけではどうにもならないことに、やっと気付いたところです。

植え付けた苗木の根や幹を保護することや、方法を考える必要があります。今年はそれに挑戦してみようと準備をしているところです。結果は、また報告の機会があるかと思っています。

「自然から学ぶ」というのが本当の勉強だと聞いていますが、たいへん難しいことです。自然は言葉を話さないなので、ただ観察すること。それをどう考えるか。ということだと思います。

今年1年が、何事も成すこともなく過ぎようとしています。それでも今日は12月16日、師走も半ばまで来ました。12月中に終えたいと考えてきましたが、間に合うかどうか心配になっているところです。

まさに、自然を注意深く観察していると、よく報道されている地球温暖化ということをつくづく考えさせられます。まずは、海水面の上昇です。もちろん、海には干満という自然現象があり、普通に見るだけでは何もわかりません。ただ、私は職場が海面の上や海のすぐそばであるので、目に付きまします。というのは、特に夏場の大潮時の満潮

時、水面がもう何年もしないうちに岸壁から手を洗うことができるのでは、と思えるほどに上昇してきています。

また、夏場の気温が確実に高くなり、30度以上を超える日の日数が毎年多くなってきています。もう過ぎましたが、今年の夏場の高温の時期には、ほとんどオクラやナスの花が咲きませんでした。当然、収穫もないに等しい状況で、気温が下がってから少々の収穫があったという程度でした。夏野菜も全滅状態で、少なからずやる気をなくした。ということなのです。ほかに原因があるのかもしれませんが、なんとなく関係づけたい。そんな気分です。どうやら、農業や漁業の「時は今」少しずつ変化をしているように思います。

そして、またコロナの問題やロシアの問題など、世界的に不安要因ばかりが報道される。これでは、こちらもなんとなく不安に駆られてしまうばかりです。ひょっとしたら、今、まさに「時は今」なのかもしれないと思ったりもします。いずれにせよ、何の前触れもなしにやってくるのが、「時は今」だと思います。そういう不安要因ばかりで明け暮れた令和4年も、後、わずか15日を残すだけとなりました。「備えあれば、憂いなし」という言葉もあります。好機到来を含めて、非常時ともいえる「時は今」に備える気持ちだけは持ち続けたいものです。

本年も、また皆様方にはたいへんお世話になりました。誠にありがとうございました。来たる来年も、また、よろしく願いいたします。皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

まとまりのない卓話となりましたが、最後までご清聴、誠にありがとうございました。